



子育て通信

カナリヤ

発行 第345号 2024. 8. 1.

時津町子育て支援センター『こぼとの家』
長崎県西彼杵郡時津町西時津郷 1000-10
支援センター TEL095-882-7455
保育園 TEL095-882-4559
FAX095-882-4901
ホームページ
<https://www.togitsukobato.jp>

～おままごとでおやつ作り！楽しいね～



～すべり台の上から、「お～い！」～



『平和と戦争を考える』

誰かの犠牲の上に成り立つ、
自分たちだけに都合のいい世界は
平和な世界ではありません。
平和な世界とは、
すべての人が、
人間らしく幸せに暮らせる世界。
家庭に、職場に、社会に、
心の平和を実現しましょう。

「こころの深呼吸」
～気づきと癒しの言葉366～より
著：片柳弘史神父

1945年8月6日午前8時15分、広島に、8月9日11時2分に長崎に原子爆弾が投下され、今年で78年が経過しようとしています。

ロシアやウクライナ、イスラエルなどの多くの国で戦争や内戦が起こっています。世界中には約1万3千の核兵器が存在しており、唯一の被爆国である日本は核兵器禁止条約に批准していません。

被爆者の高齢化に伴い戦争体験を語り継ぐことの難しさや戦争の記憶が薄れていくことが懸念されています。

高校生の核兵器廃絶を求めるから2001年に長崎で高校生1万人署名活動が生まれました。「ビリョクだけどもリョクじゃない」というスローガンのもと全国各地の街頭で高校生が署名活動を行い、今は、北海道・岩手・福島・新潟・東京・神奈川・静岡・大阪・奈良・広島・福岡・大分・佐賀・熊本・宮崎・長崎と全国に高校生平和大使の活動が広がり、1998年から現在まで国連欧州本部や世界各地を訪問して、核兵器廃絶と平和な世界を訴え発信をしています。

保育園の園児や学童の子どもたちに平和について語り続け、子どもたちが大人になった時、戦争がない平和な世界であり続けてほしいと祈り続けていきたいと思っております。

『子どものジェンダーにどうかかわるか』

「ジェンダーってなに？」



ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性別の役割のこと。

ジェンダーについて考えるということは「男の子らしい、女の子らしい、ってどういうこと？」を考えることにつながります。子どもたちは生まれた時から性別についてのメッセージを受け取っています。例えば、赤ちゃんの服やおくるみの色。成長していく中でも、買ってあげる玩具や、提案する習いごとなど…。

男の子はブルー、女の子はピンクといった色の「男の子らしさ、女の子らしさ」や、男の子はヒーローにあこがれて、女の子はプリンセスに憧れるはず、といった「男の子らしさ、女の子らしさ」。周りの大人たちやメディアの影響を大きく受けて、子どもたちは「男の子らしさ、女の子らしさ」のメッセージを受け取っているのです。

～どんなことに気をつけたらいい？～

①

保護者自身がジェンダーにとらわれずに生きていいことを理解すること

「男の子らしさ、女の子らしさ」にこだわらなくていいことや、「人はそれぞれ異なり、一人ひとりが大切にされる権利があること」を保護者自身が知りましょう

②

「男の子らしさ、女の子らしさ」をおしつけることを言わない

「ピンクの服の方が、女の子らしいよ」「男の子だから、外で元気に遊びなさい」「これは女の子用（男の子用）のおもちゃだからこれにしたら？」という言動をしないようにして、代わりに子ども趣味や興味を肯定する言葉をかけてみましょう。
「これいいね。こういうのが好きなんだね」「〇〇ちゃんらしくて似合うとおもうよ」など

③

さまざまな家族のあり方があることを伝える

「男の子らしさ、女の子らしさ」にこだわらない価値観を伝えるとともに、「パパとママがいるおうちもあれば、パパだけママだけのおうち、おじいちゃんおばあちゃんが子どもを育てているおうち、パパがふたり、ママがふたりいるおうちもある」という家族の多様性についても伝えることができます。

「ジェンダー」について小さな子どもに伝えるのは難しいことだと思います。子どもと遊びながら、楽しく、からだやプライベートゾーンなど絵本やグッズなどを使って伝えていくのも一つの方法ですね。



水遊びを楽しむために



夏本番を迎えましたが、子どもたちは元気いっぱいですね。暑い日には、ご家庭でもプールや水遊びをする機会が増えてくることと思います。水の事故が起こらないよう気をつけながら、水遊びを楽しみましょう。

- 自宅でも子どもたちだけにせず、大人が必ず付き添う

水が浅くても、子どもはバランスを崩して溺れたり、けがをしたりすることもあるので目を離さないようにしましょう。

- 外気温が25℃以上の日（または時間帯）にする

プールに水をためる場合は、少し早めに水をためて冷たすぎないように調整しましょう。

- 長時間の水遊びは避ける

通常の遊びと違って、水遊びは体力を消耗します。子どもの様子を見ながら、**20分に1回程度は休憩**をしましょう。

- こまめな水分補給をする

屋外での水遊びは思っている以上に汗をかくため、熱中症予防のためにも**水分補給**を忘れずに行いましょう。

- 夏の日差しに注意！

紫外線による日焼けは、子どもの肌に負担がかかります。日除けをして**直射日光が当たらない工夫**や**日陰を活用**しましょう。



支援センター1階でも遊べますよ



すべり台やバランスブロックなど、からだを使って遊ぶ玩具を置いています。遊びにきてくださいね！

※保育園行事等により、利用できない場合があります。予めご了承ください。